



ウキクサの生育には、土は必要ないの

ウキクサの根は、水中にういている

池やぬま、小川などで、水面が緑色になったような所を観察してみましょう。小さい丸い葉が、いくつも重なったようなかたまりが、水面にういているのがわかります。これが、ウキクサです。風の強い日は、1か所にふき寄せられていることがあります。

ウキクサは、裏返してみると、長い根が何本も、水中にたれ下がっています。この根は、うすい表皮から水や養分を体内に取り入れたり、水中の何かにかみついて風に流されるのを防いだり、風で体がひっくり返らないようにする、重りの役目をしています。

ふえるときも、土はいらない

ウキクサは、体全体が葉のような葉状体で、わきに、小さい葉状体ができきます。元の葉状体と、新しくできた小さい葉状体は、裏側で白い糸のようなものでつながっています。4～5個以上の葉状体がつながったようになると、この糸が切れて、わかい小さい葉状体は、はなれていき、そこで、新しい葉状体をふやしていきます。土は必要ないのです。

冬になるとウキクサは、栄養分をためた2ミリメートルぐらいの大きさの、小さい芽を残します。この芽が、水底や、しめった水田の土にはりついて冬をこし、春になると、芽がふくらんで水面にういてきます。(監修・矢野 亮)

